

第5回 居場所を失った人への緊急活動応援助成（中央共同募金会）

活動報告書

NPO法人ささえる

活動名	緊急で住まいが必要な人への居住支援事業と居場所づくり
活動期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
事業（活動）の概要	<p>緊急に住まい支援が必要な方に対してシェルター（既存のシェアハウス）を使って住まいを提供し、生活再建に必要な支援として、今後地域で暮らしていくために必要な公的サービス（福祉サービス）の手続き、就労を目指す方の自立支援の相談、生活保護受給等の行政手続きなど、協働機関とも連携し、利用者の特性や生活背景に合わせた支援を行いました。</p> <p>その後の居住についても、部屋探しや契約手続きの同行などを行い、スムーズに地域移行が行えるよう関係機関と協力して居住先を確保しました。</p> <p>また、地域とのつながりづくりとして、シェルター利用者だけでなく孤立状態にある地域の要配慮者も対象に、団体が借り上げている店舗（営業許可取得済み、現在は居場所づくりのみに活用）を開放して、地域住民との交流の場として利用してもらいました。ハロウィンイベントには大勢の子供たちが集まり、利用者さんが袋詰めをしたお菓子を約300人にお渡しすることが出来ました。</p> <p>その他に、シェルター利用者の就労訓練として、冷凍自販機用の焼き芋や干し芋、ベーグルの製造を農家や企業、ボランティアと協働して行いました。</p> <p>年末には、松山市内の地域包括センター職員の有志の方々と食事支援として弁当をつくり、支援対象者へ配布しました。</p>
活動日数	365日
支援対象者人数	47人（延べ72人）
参加ボランティア人数	18人（延べ41人）

<p>事業（活動）の成果</p>	<p>既存制度では、支援策が対象者の属性で分けられてしまい、高齢者かつ生活困窮、障がい者かつひきこもりなど、複合的な要因を抱えた方に対して実情に合わせた支援が取りにくくなっています。</p> <p>今回の助成で行った事業は、そうした方々に対して、対象者の属性に関わらない柔軟な受け入れを行うことができ、また、就労や生活相談など地域移行までの一貫した取り組みが行えたことで、結果として延べ17名の生活困窮者やホームレス、ひきこもり等の受け入れを行い、うち11名が地域移行することができました。</p> <p>こうした実績が出来たことで、多くの関係機関から今後も引き続き支援を行ってほしいとの要望が挙がっています。</p> <p>就労訓練や地域での居場所づくりも徐々に賛同者が集まってきており、農家や企業からの受注や地域イベントへの参加につながりました。</p> <p>また、これまでの助成事業（昨年度のフードバンク等助成事業）で行ってきた食事支援を、地域とのつながりづくり・食事支援として継続できたことで、行政や社協などの関係機関からの事業活動への認知も向上したと感じています。</p> <p>ボランティアさんも医療や福祉の専門職の参加者が増えたことで、単発での活動参加ではなく、地域づくり・ネットワークづくりとして事業全体に参加しようとしてくれました。</p>
<p>事業実施で見えてきた課題と今後の取り組み</p>	<p>緊急の住まい支援については、実利用人数だけではなく問い合わせ件数も含めると、必要性の高さを感じています。今後も独自事業とはなりますが、地域での緊急受け入れ先として対象者の属性を問わない緊急シェルター事業を継続していきたいと考えています。</p> <p>就労については、まだまだコロナによる影響が収束しない中、再就職先が見つからない方が多くいます。様々な生活課題を抱えている方も多く、就労への意欲や生活環境を整えることから始めなければならない場合もあります。そうした方に対し、就労訓練だけでなく産業カウンセラー等による相談やハローワークへの同行支援、定期的な見守りなど寄り添った支援が今後も必要だと考えています。</p> <p>また、地元企業もコロナ禍での事業継続を模索する中で、福祉団体と協働して新たな取り組みを行おうとしている企業も声をかけてくれるようになりました。そうした企業と共に新たな雇用機会を創出し、地域活性や地域とのつながりを重視した地域移行支援を行いたいと思っています。</p> <p>地域での居場所づくりは、もう少し踏み込んだ交流づくりも出来ていくのではないかと感じています。賛同者やボランティアが増えていますので、色々な方の知恵や人脈等を生かしながら地域での支援体制づくりに繋げて行けたらと考えています。</p>

ご寄付をいただきました
皆さまへ

この度は当団体の活動にご支援いただき、心より感謝申し上げます。皆さまのご支援にて、住まいを失った方に対し、緊急の住まいや食事を提供することができました。

「安心できた。」「一人でどうしようかと思った。ありがとう。」など、利用者さんが笑顔になっていく様子を見て、私たちも活動続ける励みになりました。

また、多くのボランティアさんにも支えていただき、今後も地域の方とともに活動を続けていきたいと思っています。

まだまだ支援を必要とする方がいらっしゃると思いますので、今後もより多くの方々へ支援をお届けできるよう、努力してまいります。本当にありがとうございました。

